須藤英仁・県医師会長に「新感染症」聞く

体調管理で自身を守り 拡大防ぐ「公助」促す

新型コロナウイルス感染症との闘いは、終息が見通せない。感染の広がりを最小限に抑え、県民の健康と命を守ることが求められている。県連の対策本部は県や市町村、関係団体と力を合わせ、この喫緊の課題に向き合っています。県民の公衆衛生を協力して向上させてきた県医師会の須藤英仁会長に、新たな感染症への取り組みなどをお聞きした。

「県内の医療機関の機能が滞るのが一番怖い」。冷静に「公助」を意識した行動を求める須藤会長

――県内でも感染者が出ました。県内の医師に危機感は広がっていますか。

須藤　広がっています。感染者を探して治療をするのも大切ですが、病院、診療所の機能がストップすることが一番心配です。受診する方のほとんどは新型コロナウイルスとは関係ありません。診療機関で感染が拡大し、一般の患者さんに医療が提供できなくなる**「医療崩壊」は絶対に防がなければなりません。**

私の病院は発熱の患者さんと一般の患者さんの受診コースを分けて対応しています。

――新感染症の特徴は？

須藤　中国・武漢の情報がはっきりするにつれ、インフルエンザと同等の感染力があると感じてきました。16歳以下の子どもの感染や重症化のケースは少ないようですが、高齢者、基礎疾患のある方が感染すると重症化につながりやすい。十分注意してほしいし、この際、喫煙習慣のある人はたばこを止めた方が良い。

――群馬の医療は、どう対処していくのでしょうか。

須藤　県医師会も各地の医師会も、開業医の先生と常に情報の共有を心がけています。医師は発熱、風邪症状のある方の診察はスタンダードプレコーションといってマスクの着用や消毒を徹底します。また体調不良の医療関係者の診療禁止をお願いしました。院内感染の防止に細心の注意を払っていきたいと思います。

――県内で患者が発生し、増える段階となり、県民は、熱が出たり、倦怠感が続いたりしたら不安になります。

須藤　心配なのはよく分かります。しかし、医療機関に直接行かないで、電話でかかりつけ医に相談してほしい。医師の判断を聞いて、指示に従って冷静に行動することです。病院、診療所の機能を維持するためにも、**まずは電話での対応を**お願いしたい。

――世界中で患者が増えている中、日本で亡くなる人は少ないように感じます。

須藤　日本国民の医療に対する意識の高さと、受診しやすい「皆保険制度」が患者さんの生命、健康を守る力を発揮しているのでしょう。

――医師の立場から、県民にメッセージを。

須藤　石けんで良いので、手洗いでウイルスを洗い流すことをこまめにしてほしい。手のアルコール消毒、うがい、マスクの着用も有効でしょう。

よく食べて、よく寝て、体調管理をしっかり行なう。運動も大切だ。いわゆる「自助」のほかに、人ごみを避けて、人にうつさない「公助」も心がけてほしい。

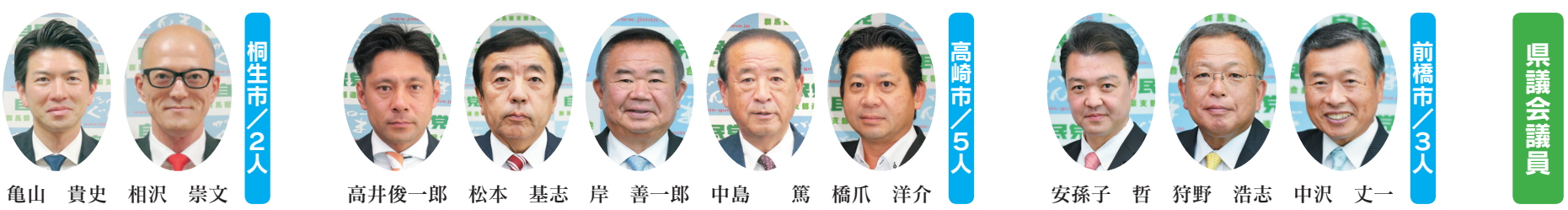
ガンバロー ぐんま

力合わせて 「ふるさとの発展」築きます！

国会議員

参議院議員 清水　真人
衆議院議員 中曽根　康隆
衆議院議員 上野　宏史
参議院議員 羽生田　俊
衆議院議員 尾身　朝子
衆議院議員 井野　俊郎
衆議院議員 福田　達夫
衆議院議員 笹川　博義
参議院議員 中曽根　弘文
衆議院議員 小渕　優子

県議会議員



桐生市／2人：亀山　貴史　相沢　崇文
高崎市／5人：高井俊一郎　松本　基志　岸　善一郎　中島　篤　橋爪　洋介
前橋市／3人：安孫子　哲　狩野　浩志　中沢　丈一
藤岡市・多野郡／1人：神田　和生
渋川市／1人：星名　建市
館林市／2人：多田　善洋　泉沢　信哉
沼田市／1人：金井　康夫
太田市／2人：秋山健太郎　穂積　昌信
伊勢崎市／4人：斉藤　優　大和　勲　井下　泰伸　臂　泰雄
邑楽郡／3人：森　昌彦　川野辺達也　久保田順一郎
佐波郡／1人：井田　泉
利根郡／1人：星野　寛
吾妻郡／1人：萩原　渉
甘楽郡／1人：牛木　義
みどり市／1人：今泉　健司
安中市／2人：伊藤　清　岩井　均